

埋蔵文化財発掘調査ニュースNo.7

あ じゃ いり ばる こ ぼ ぐん
安 謝 西 原 古 墓 群



1998年3月

那覇市教育委員会

安謝西原古墓群発掘調査ニュース

(1) はじめに

今回は、平成9年9月から平成10年3月にかけて発掘調査を行った「安謝西原古墓群」の概要について紹介します。

本遺跡は、那覇市安謝（小字＝西原）に所在します。安謝は本市の北西部に位置し、安謝川を挟んで浦添市と接しています。戦前、この一帯は、畑地が広がるのどかな農村地帯であったようです。また、那覇と中北部とを結ぶ交通の要所でもありました。現在では、国道58号線の拡幅や海岸沿いの埋め立てなどによって、往時の景観は失いつつあります。さらに、その南側の那覇新都心地区内では、区画整理事業が進められており、周辺的环境はより一層変化して行くものと見られます。

なお、本遺跡が所在する新都心地内には、平成10年3月現在、17遺跡の存在が確認されています（第1図）。

(2) 発掘調査の概要

本古墓群は、標高約21.5mを頂点とした琉球石灰岩台地の崖下や斜面に形成されています（第2図）。その台地は、国道58号線付近を西端として東にのびており、かつては「名

護毛^{ゴモウ}」と称されていたようです。

今回の調査では、北側斜面に31基、南側斜面に15基、合計46基の古墓が確認されました。

まず、北側斜面（第4号～32号墓、第48・49号墓）では、小規模で簡素な掘込墓や外面を漆喰・セメントで補修した破風墓・平葺墓などが見られました。墓室内には、蔵骨器（厨子甕）を安置するための「タナ」が一段～三段設けられ、一次葬のための「シルヒラシドゥクル」を合わせ持つ構造となっています。

一方、南側斜面（第33号墓～47号墓）は、大きめの掘込墓で、墓全体が基盤である琉球石灰岩を掘り込んで造られています。墓室内のタナは、比較的高い位置に造られており、出窓状になっています。さらに、その壁には、縁取りなどの装飾が施されています。その他に、蔵骨器を安置するための空間を柱状の仕切りで区切る構造も確認されました。墓口（墓道）には、柱を立てたと見られる円形のはぞ穴や琉球石灰岩製の切り石を用いた扉のかかりが設けられていました。このような状況から、墓の入口は木製の戸で塞がれていたと見られます。『使琉球録（1534年）』という文献に、琉球の王や臣下の墓は、墓口を木製の戸で塞いでいるという内容の記述が見

られます。本古墓群との関連が注目されます。

(3) 第35号墓について (第3図)

第35号墓は、南側斜面の西側に位置しています(第2図)。墓室内は、精緻な造りで、正面に3つ、左右に一つずつ、入口側に3つのタナが掘り込まれています。正面中央のタナからは、長軸約28.5cm、短軸約21.5cm、深さ約10cmを測る楕円形を呈した琉球石灰岩製の容器が埋め込まれた状態で検出されました。その中には、焼骨片が納められていました。

ちなみに、『四本堂家礼(1736年)』という文献に、

曾祖父照屋親雲上夫婦御兩人、南京墓ニ被葬置候処、祖父高良親方其骨を焼、墓内上壇之正面ニ穴掘被入置事ニ候故、(省略)という記述があります。これは、祖父が曾祖父夫妻の骨を焼き、お墓の正面の「タナ」に穴を掘って改葬したという内容です。本遺構との関連が注目されます。

(4) 出土遺物について

本古墓群からは、在地で造られたサンゴ石灰岩製や陶製の蔵骨器の他に、中国産陶磁器、煙管、簪、銭貨など多種多様な遺物が得

られています。

蔵骨器には、墨書(銘書:ミガチ)で被葬者の名前や身分、亡くなった年代や洗骨を行なった年代などが残されているものもあります。銭貨は、墓口付近の土の中から、比較的まとまって出土する傾向にありました。

これらの資料は、今後の資料整理作業の中で詳細に検討することになっています。

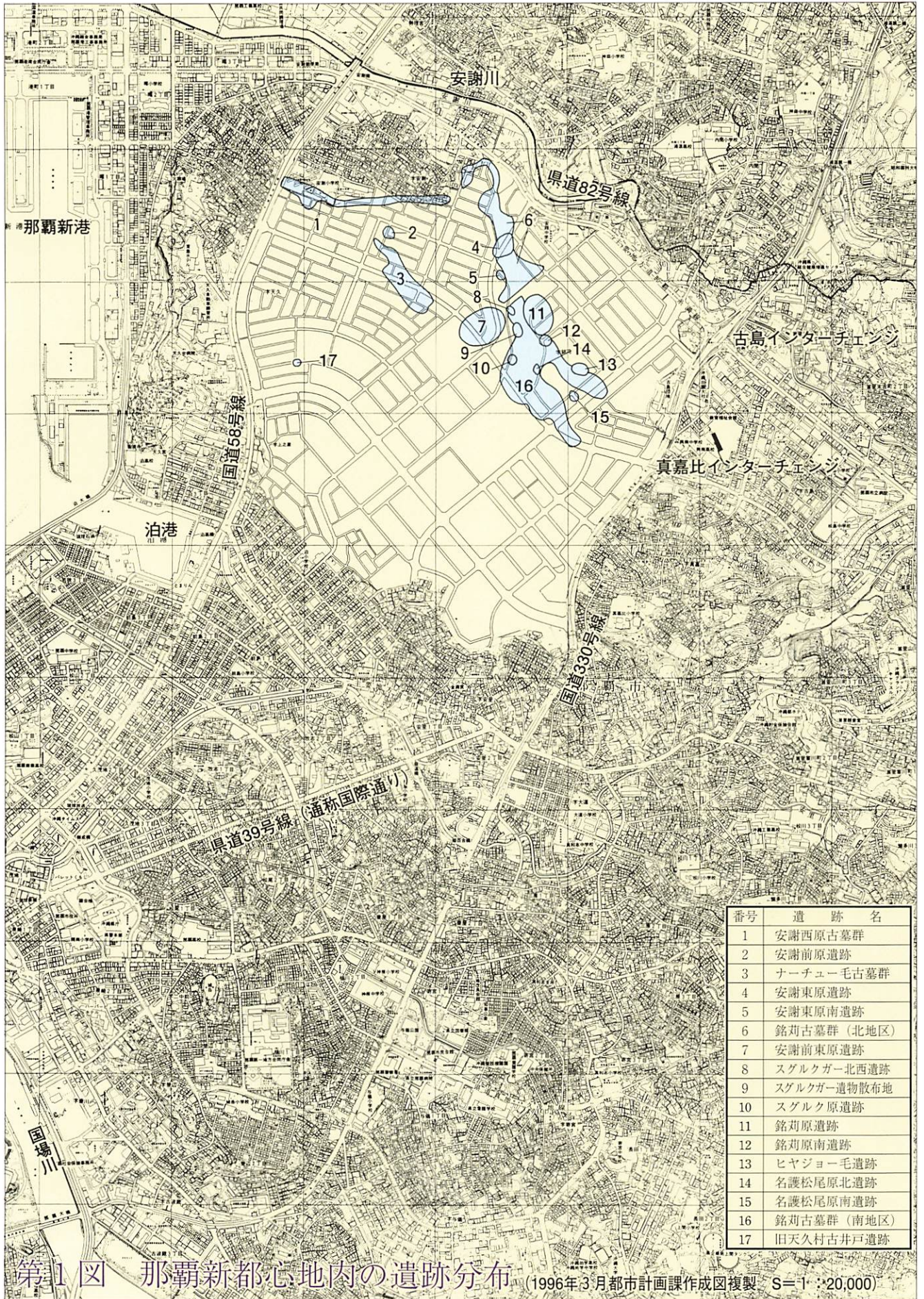
(5) おわりに

以上、安謝西原古墓群の概要について紹介しました。

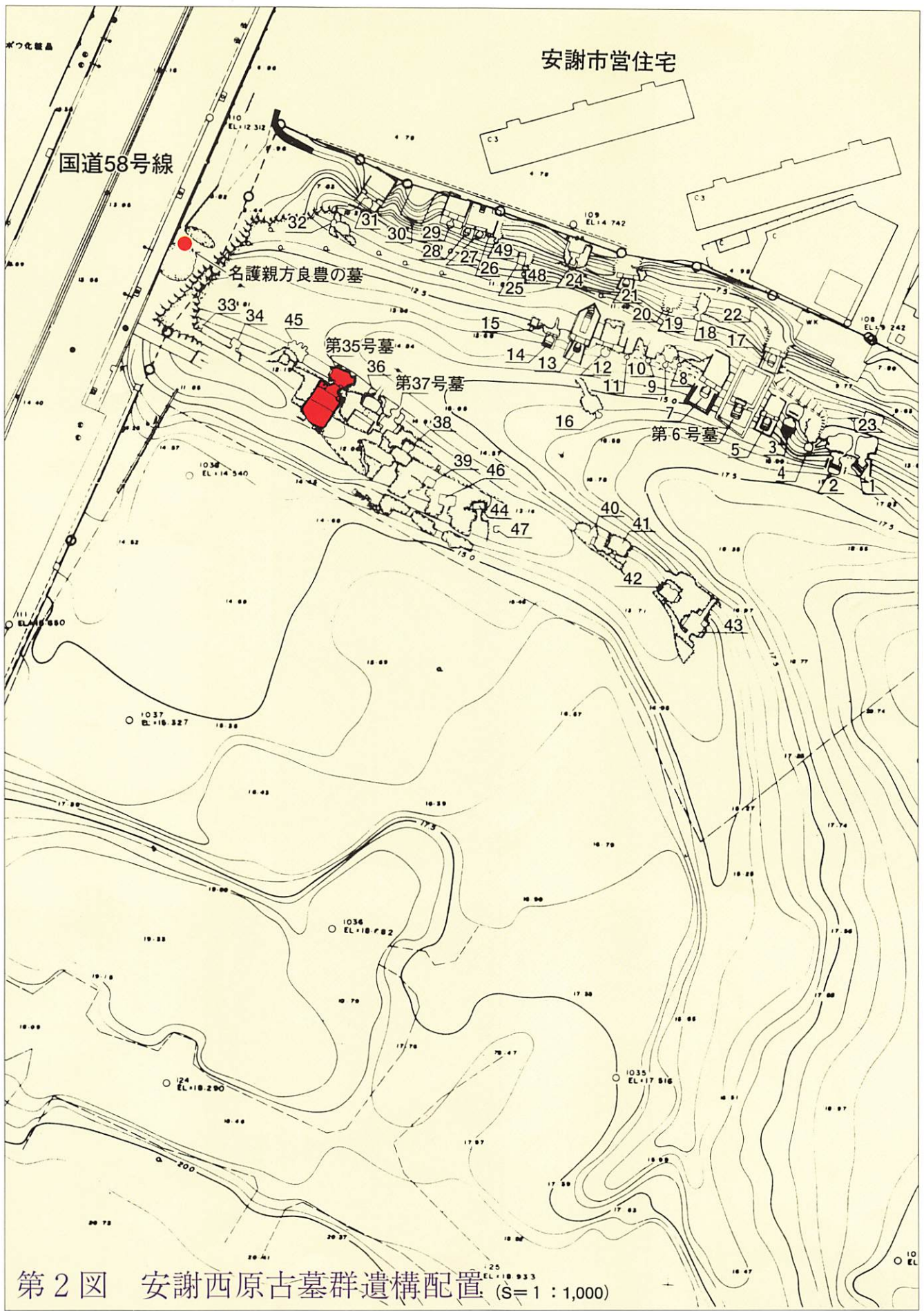
今回の調査で注目されたことは、木製の戸で入口を塞いだと見られる古墓が確認されたことや、焼骨が特定の意識を持った形で確認された事などが上げられます。さらに、これらは文献に記された事柄と共通点が窺えたことは重要な成果と言えます。

また、本古墓群内には1609年、薩摩による琉球侵入の際に活躍した「名護親方良豊」の墓が確認されています(1990年調査)。このことから17世紀代にはすでに、この一帯が墓域として利用されていたことが分かります。

今回紹介した調査成果は、今後、近世沖縄における葬墓制研究の貴重な資料になることと期待されます。



第1図 那覇新都心地内の遺跡分布 (1996年3月都市計画課作成図複製 S=1:20,000)



第2図 安謝西原古墓群遺構配置 (S=1:1,000)

北側斜面の状況



北側斜面全景（東から）
左側にセメント等で補修された墓、右側に小規模の掘込み墓が整然と並ぶ。



第6号墓作業風景(北西から)
セメントで補修された墓庭を、削岩機を使ってはがして
みる。



第6号墓室内遺構検出状況
シルヒラシドゥクルに、木
の遺構(木棺の枠組跡か?)
が検出された。

南側斜面の状況

南側斜面全景（南東から）
斜面に所狭しと並ぶ古墓群、左上に国道58号線が走る。遠くに東シナ海が広がる。



発掘調査の状況（南東から）
屋根は壊され、墓庭・墓室が露出している。

第37号墓蔵骨器配置状況
（西から）
石製・陶製の蔵骨器が検出された。



第35号墓の状況



第35号墓近景（南西より）
墓の全体が琉球石灰岩を掘り込んで構築される。



墓口の状況（南西から）
墓口の左側上下にホソ穴が確認された。



墓室内の状況①
正面および、その左右に精緻な装飾が施されたタナが設けられている。



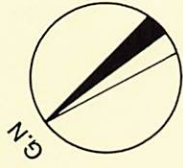
墓室内の状況②
右側側面



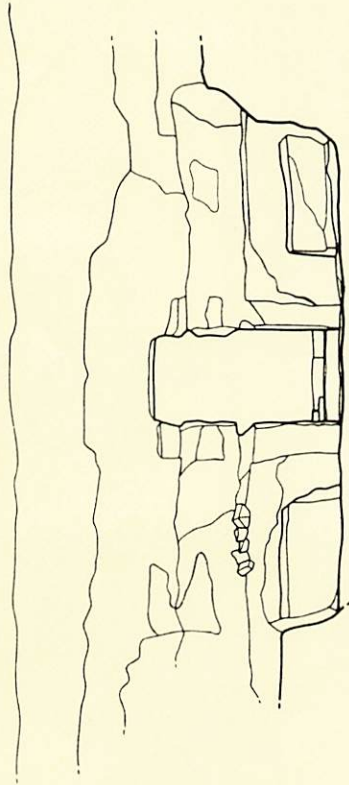
墓室内の状況③
左側側面、一部防空壕
によって攪乱を受けている。
右側と同じ造りであったと
見られる。



焼骨検出状況
正面のタナから、石製の容
器に入れられた状態で焼骨
が検出された。容器はタナ
に穴を掘って埋め込まれて
いた。



B' — E. L = 12.000m



B

正 面 図

C' — E. L = 12.000m



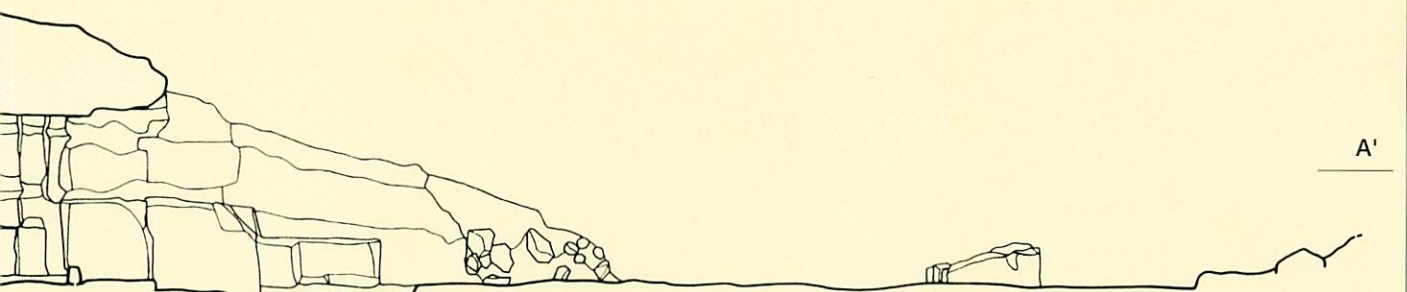
C

E. L = 12.000m

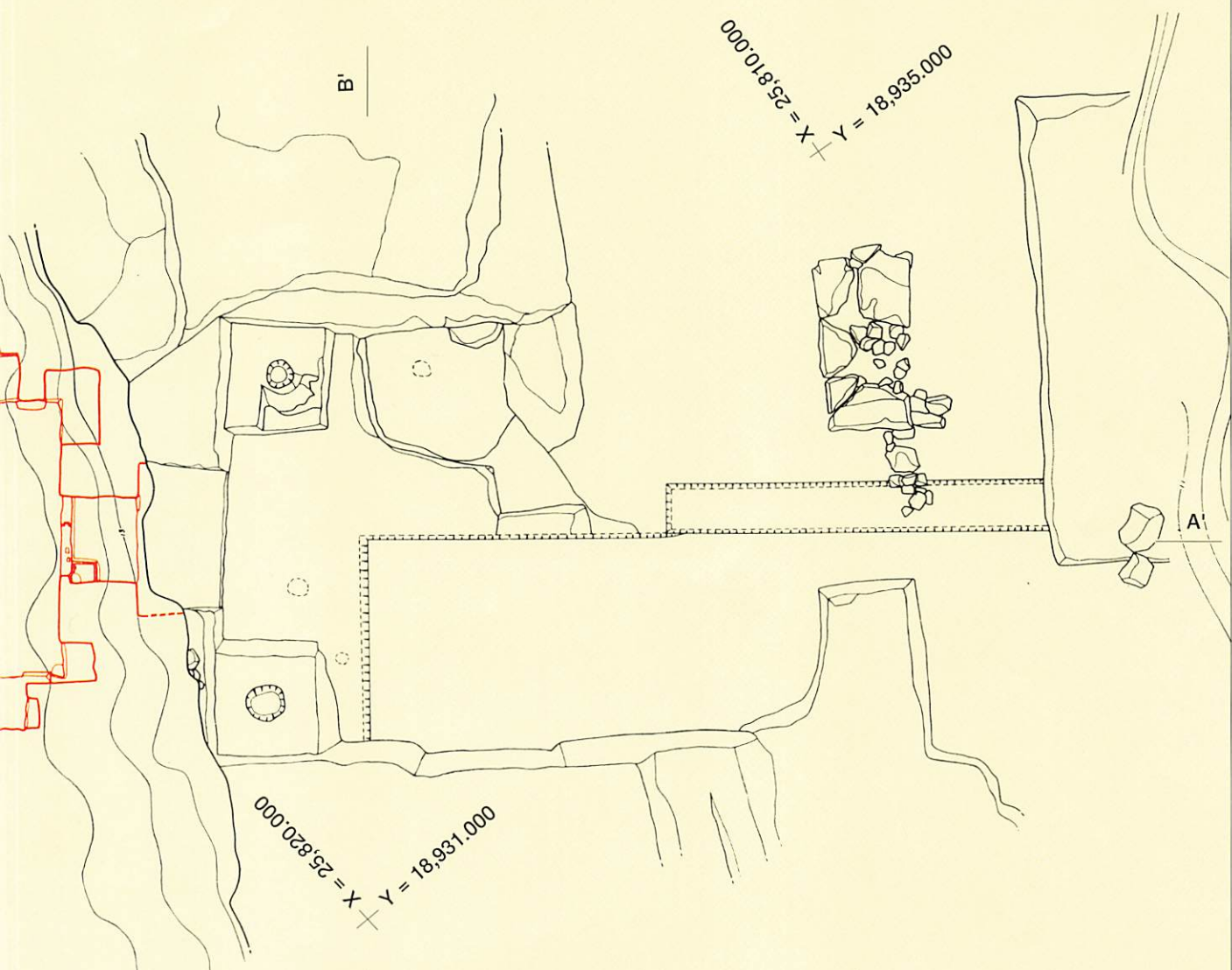
A

墓 室 正 面 図

A



断面見通し図



平面図

凡 例	
漆 喰	
セメント	



発行／那覇市教育委員会 〒900-8553 沖縄県那覇市樋川2-8-8
TEL (098) 853-5775

編集／那覇市教育委員会文化課
印刷／有限会社 サン印刷